

# Gender differences in serum testosterone and cortisol in patients with major depressive disorder compared with controls

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2013-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松坂, 尚 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001341">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001341</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 松坂 尚

論文題名 Gender differences in the alterations of serum testosterone and cortisol in patients with major depressive disorder compared with controls

(大うつ病患者における入院時血清テストステロンおよびコルチゾールの意義)

論文内容の要旨

目的：うつ病患者でテストステロンの治療的意義が報告され、うつ病の諸症状への影響が指摘されている。テストステロンなどの性ホルモンはうつ病で注目される視床下部一下垂体一副腎系との間に相互作用が指摘されており、うつ病患者におけるテストステロンの生物学的意義を検討することは重要と考えられる。そこで本研究では、うつ病患者の血清テストステロンと血清コルチゾールの変化およびうつ病の諸症状との関連性を男女別に検討した。

方法：対象は順天堂越谷病院に DSM-III-TR にて大うつ病 (MDD) の診断で入院した 87 例 (男性 43 例, 女性 44 例) である (MDD 群)。入院時に血清テストステロン/コルチゾール濃度とハミルトンうつ病評価尺度 (HAM-D) を測定した。対照群は MDD 群に年齢を一致させた 128 例 (男性 50 例, 女性 78 例) である。以上の群に対し以下を検討した。1) 対照群における血清テストステロン/コルチゾール濃度の男女比較, 2) MDD 群と対照群における血清濃度の性別比較, 3) MDD 群の男女別の血清濃度と HAM-D スコアとの相関性, 4) MDD 群の血清濃度に影響を及ぼす要因に対する重回帰分析である。本研究は順天堂大学医学部倫理委員会による承認を受け書面で同意を得た。結果：1) 対照群では、男性の血清テストステロンおよびコルチゾール濃度が女性に比して有意に高かった。2) 血清テストステロンは MDD 群と対照群で有意差はないが、血清 cortisol は女性 MDD 群で有意に増加していた。3) 男性 MDD 群では、血清テストステロンと HAM-D 総点数との間に負の相関の傾向がみられ、下位項目 retardation との間には有意な強い負の相関を認めた。4) 男性 MDD 群では、血清テストステロンに対しうつ病エピソードの出現回数が正の影響を与えた。

考察：うつ病患者の血清テストステロンは有意な変化を認めなかったが、男性 MDD 群で一部の精神症状で重症度との間に負の相関がみられたことから、低性機能 (hypogonadism) を有するうつ病男性患者ではうつ状態が重症化する可能性があると考えられた。血清コルチゾールの変化は女性のみであったが、これまでにうつ病患者の HPA 系反応に関して性差が存在するとの報告があり、それに関連した所見と思われた。一方、うつ病重症度との間に有意な相関はなくうつ病の指標とはなり難いと考えられた。